

# オアシスの森くらぶ

## ニュースレター15号 2002.6.8発行

発行 オアシスの森くらぶ  
編集委員会  
発行人 永田 修二  
編集人 近藤 眞史  
編集長 五十川 幸夫

### 2002年度総会決議の報告

近藤 眞史

5月11日(土)午後1時より相生コミュニティセンターで「2002年度総会」が行われました。

そこで議決した内容について報告します。

2002年度役員

オアシスの森くらぶ

会長：永田 修二

副会長：眞弓 浩二(兼運営委員長)

会計：村田 英二

会計監査：小池 敦夫

書記：近藤 眞史

運営副委員長：大館 学

オアシスの森公園愛護会

会長：五十川幸夫

(敬称略、は新任、無印は昨年度より継続)

その他

賛助会員について

定例活動など普段の活動に参加できない会員が、普段から活動している会員と同じ扱いでは、たまに参加しようとしても参加しづらいのでは。そういう会員のために、総会での決議権を持たない「賛助会員」の制度を設けてはどうか、との意見が出されました。

これについて議論した結果、活動への参加の有無に関わらず会員は全て同等の扱いとすることに決まりました。また、たまに参加しようとしても参加しづらい要因として、普段から活動に参加している会員の名前も分からず、疎外感を感じることも考えられるため、そうしたことを少しでもなくすために

活動に参加した全員が名札を付けることになりました。

ですから、仕事の都合などで定例活動に参加できない会員の方でも、もし参加できる日があれば、気軽に参加して下さい。

会員名簿の配布について

会員名簿については、プライバシー保護のため、これまで役員にしか配布されていませんでした。今回、一般の会員にも名簿を配布してほしいとの意見が出され、議論の結果、住所は市区町村名までとし、電話番号は記載しない形で、会員全員に配布することになりました。

以上

### 3月定例活動「第4回萌木祭り」

永田 修二・古川 俊江・近藤 眞史

萌木まつりも回を重ねて4回目、すっかり相生山の春の風物詩となってきました。今回は昨年からはまった「天白もりのフォーラム」の第2回フィールドサーキット会場にもなり、また、犬山エコアップリーダーの有志も参加されました。

午前中「フィールド探訪」のあと、交流会を兼ねて昼食をとり、午後は「フィールドワーク」を行って、参加した皆さんは、本格的な春の訪れを間近に控えた森での一日を楽しく過ごしました。

(午前の部)フィールド探訪

午前中は、森くらぶが発足する以前から続けられている植生管理の後を振り返り、その実績の検証を兼ね、今後の活動に活かしてゆくための森めぐりを行いました。



林進さんの活動成果を受けながら

林進さんをリーダーに森に入り皆それぞれの活動を思い出し、96年の第1回の柴刈り大会から今まで、森の移ろいを改めて感じました。

このようなイベントでの催しだけでなく、継続して検証して行くことの必要性を再確認しました。

昼食交流会

昼食には、豚肉、里いも、大根人参etc...、野菜たっぷりのあったかい味噌汁を用意しました。お味のほどは「？」です。

竹林整備のあとの竹から森くらぶのみんなで制作した竹炭を使って、野浪さんが焼いて下さったお餅がとてもおいしかったです。

昼食を終えた後には、最近の森くらぶにとって中心的活動の一つになりつつある「竹炭焼き」について、他団体の参加者に実際に炭焼きの様子を見てもらいながら、村田さんから炭焼きの目的やコツなどが語られ、他団体の皆さんは物珍しさもあり、熱心に聞き入っていました。



竹林整備に汗を流す参加者たち

(午後の部)フィールドワーク

午後は、引き続き林進さんの指導のもと、つどいの広場から下った山根口付近の竹林整備を行いました。

今回は、竹の勢いに押され衰弱しつつある他のいろいろな植生を復元させようと、竹林の一部、上流側の竹を皆伐することにしました。

普段の活動日では作業のボリュームがありすぎて難しかったのですが、この日は参加人数も多く、他団体の方々も精力的に汗を流してもらい、作業は思ったよりスムーズに進みました。

来年の春あたり、まさにみんなの流した汗が結晶となって、そこにどんな芽吹きが見られるか、今から楽しみですね。

## 1月定例活動「竹林の手入れ(菅田口・山野辺の小径付近)」

眞弓 浩二

新年第1回目の活動会は、菅田口からクラブハウスへ向かう山野辺の小径沿いの北側斜面地で行いました。ここには小さなモウソウチク林がありますが、放置された状態で竹林内は密集し、またその周囲の雑木林の中に竹が侵入し始めていて、以前より気になっていた場所でした。

昨年10月には「ドングリ祭り」の柴刈り大会で、また12月には「森づくり塾」の実習で竹林の管理作業を行ってきた経緯もあって、この日の活動で概ねの完成を目指しました。

参加者は12名ほどでしたが、皆さ

ん自分に合ったペースで着実に作業をこなし、ずいぶんすっきりとした雑木林の景観がよみがえってきました。中でも斜面地にあるヤマザクラの大樹がその立派な姿を現し、また新しいシンボルツリーの観賞ポイントができました。

この日に伐り出された竹材は一定寸法に切りそろえられ、クラブハウス前に設けられた炭焼き窯で、2月の10日から11日にかけて催された竹炭焼き活動の炭材として利用されました。

これら一連の活動は、規模は小さな

ものですが、オアシスの森の中で森林資源の有効利用が図られていることを肌で感じることができたものでした。

来年は、このヤマザクラの下でお花見会でもやりましょうか・・・



で、前面の竹を除去したこと  
を現した。  
奥のヤマザクラが姿

## 2月定例活動「アカマツ林再生プロジェクト - その3」

眞弓 浩二

見晴らしの丘から西へ約100mの尾根上にある「散策エリア」では、マツクイムシの被害で徐々にアカマツが枯れ、荒れた状況になりつつあります。

森くらぶでは3年前から「このアカマツ林を以前の元気な林に戻したい」との思いから、このプロジェクトを始め、今回で3回目となりました。

枯死木を取り除き、地面に堆積した落ち葉や腐葉土を掻き取り(ごうかき)、実生のアカマツの育成に不可欠な除伐や枝落としによる照度改善などの作業をおこないました。

作業場所に集まった会員は、まず昨年の作業の効果を見る意味で、林床を慎重に観察し、実生苗があるかどうかを確認しました。するとあちらこちらで「あったー!!」と声が上がリ、小さくかわいいアカマツの1年生がいく

つも生まれていることがわかりました。そしてこれらの実生を踏み荒らさないように目印の柵をつくり、この日の作業に入りました。



次世代のアカマツ林を担う実生苗

また、アカマツ林作業には恒例となった名古屋市立大学の岡村先生から「菌根菌」のお話を伺いながら、実際にそれを見て、乾燥した痩せ地に生育するアカマツの陰で、マツに栄養を与えながら共生関係を維持し

ている菌根菌の存在を改めて確認することができました。

また、この日の作業には、「21世紀の学校をつくる会」の皆さんも参加してくれました。慣れないノコギリ作業でしたが、みなさん結構楽しんで汗を流してくれたようでしたし、私たちも他団体の方たちとの交流も併せてでき、充実した活動会となりました。

この作業の後、4月には森林保全巡視員の安藤さん、5月には森林インストラクター会理事で樹木医の川尻さんにそれぞれこの林を見ていただきましたが、たいへん良い評価を頂き、作業のねらいや方法が間違っていないと意を強くしました。

この小さなアカマツの実生が、大きくなることを願って、これからも作業を続けていきたいと思いました。

## 4月定例活動「チェーンソーによる枯れ松整理」

大館

4月27日(土)、かねてより会員からの要望が多かったチェーンソーの使用法についての研修会が開かれました。

恒例となった2月の「赤松林の再生プロジェクト」でも話題になった、オアシスの森の中にある枯れ松の整理を効率的に行うため、旭町の林業家、安藤久氏さんをお迎えし、チェーンソーワークの習得に汗を流しました。



安藤さんから手ほどきを受け、試し切りをする参加者

まず、ズボンのすそや袖口など服装や保護具(ヘルメット、保護メガネ、耳栓など)についての注意や、作業時の危険回避の実例など、豊富な経験に根ざす分かりやすい説明を受けました。一例を挙げると、チェーンソー使用時には、チェーンソー先端上側を木材に当てるとガイドバーが跳ね上がる事故(キックバックといいます。)につながることで、また手入れの時にはガイドバーの溝を特に入念に清掃すること、ガイドバーは表裏交互に使うことなど、初めて知ることばかりでした。

チェーンソーの仕組みや手入れについて説明を受けたあと、特別参加した岡村さんの研究室の学生数名が杉の間伐材で試し切りを行いました。昼からは赤松林再生でおなじみの散策エリアで、枯れ松の整理作業に入りました。

安藤さんの手際の良い模範演技のあと数班に分かれて作業に入りました。

何しろ枯れた松はいくらでもあるので、散策路に近く倒れると危険なものから順次除伐にかかりました。しかし、かかり木になり、簡単には倒れないものが多く、慎重に作業を続け、運搬時のことも考えて、長さ1メートル程度の玉切り材が林内に山積みになりました。一部は竹炭焼きの燃料として使う予定ですが、多くは林内で朽ちていく運命にあり残念に思いました。

午後からは晴れ間もみえ、汗を流しながらの作業でしたが、森の景観を妨げる枯れ松が少なくなり、散策路の安全度も向上し有意義な一日でした。

(感想)チェーンソーは、私達のように年に数回しか使う機会のないものには手入れや保管が難しいと思った。

また、除伐した木を利用するルートを作らないと森の中が除伐材だらけになって、見苦しい。夏のキャンプの燃料や散策路の境界ブロックなどに使えないだろうか?

## 5月定例活動会「オアシスの森の健康診断」

小池敦夫

5月25日(土) 爽やかな晴天に恵まれ、岐阜県立森林文化アカデミー教授で樹木医でもある川尻秀樹さんをお招きし、「オアシスの森の健康診断 - 樹木医が診たオアシスの森」と題して5月の定例活動が行なわれました。午前2時間、午後2時間、オアシスの森を歩きながらの講習でした。

出席者23名(うち子供3名)、川尻さんの実践に裏打ちされた知識に触れることができ、また違ったオアシスの森に会えることが出来た人も多かったかと思えます。

その中で、薬草・薬木から木にまつわる様々な話の一端を紹介します。

(食)

カキ：カキの新葉のテンプラはうまいし、水道水にカキの葉を短冊状に切って入れ、5?6時間冷蔵庫で冷やすと、おいしい水に変わる。

クサギ：テンプラか茹でて食べるとうまい。

リョウブ：新芽を蒸して干したものを

を使って炊いたご飯が、本当の意味の救荒植物であるリョウブ飯である。うまくもまずくもない。

ナンテン：赤飯の熱いうちにナンテンを入れる。熱でナンテンンが出て、防腐効果を発揮する。

(アウトドア)

ムラサキシキブ：金を良く吸収する性質を利用して、金鉱脈探索に活用される。

ヘクソカズラ：ハチに刺された時に、塩で揉んで付けると良く効く。塩がなければ、良く揉んで汁を付ける。

オオバコ：土が酸性化している証し。クスノキ：材を水蒸気蒸留して抽出されるエキスが樟脳(カンフル)。かつてはピタカンファーという強心剤に用いられた。

(その他)

常緑のサカキやヒサカキは、材がパチパチと燃える。この音が邪気を払うと考えられ、神聖化し、護摩壇(ごまだん)などに使われた。

...などなどです。参加できなかった人は誠に残念でした!



川尻さんの説明を聞く参加者たち

## 「ナゴヤテレビ春まつり2002」参加報告

太田貴大

4月13日~14日に行われた「春祭り2002久屋大通公園」についての報告です。

2002年度の初活動となったこの行事は名古屋テレビ主催のものです。以前は平和公園で開かれていましたが、一年前から久屋大通公園で行われるようになりました。

オアシスの森くらぶも昨年同様出店しました。売り物としては、昔懐かしの竹で作った野菜でっぼうと風車や竹箆などの手作り竹製品です。

野菜でっぼうはオアシスの森くらぶのメンバーである跡見さんが相生山の竹を使って作ってくれたものです。

竹製品はオアシスの森くらぶのメンバーである辻本さんが猪高緑地の竹で作ってくれました。辻本さんは竹のことに関して造詣が深くみなが一目置いていました。

開店から昼までは客足も悪く、思ったように売れませんでした。値段が高

かったのか、それとも不況のせいなのかわかりません。それから値段を少し下げて午後の部に期待して昼食をとりました。午後になると天気も非常によかったです。期待どおり多くの方がテントに立ち寄ってくれました。

その中でも、多くの子供たちは始めてみる野菜でっぼうに喜んでくれました。何度も何度も大根をとばして、はしゃいでいる姿を見て、昔の遊びだって十分今に通じるのだなと思いました。またやはり多くの大人のかたが野菜でっぼうを懐かしがってくれました。

そして趣深い竹製品も好評ですぐに売り切れました。部屋に何か一つ竹製品をおくだけでなんとなく雰囲気が変わります。また竹を編んである部分は本当に精巧な技だと多くの方が喜んでくれました。

植生管理で処分した竹を、炭や工芸品にして利用することはとてもいいことだと思います。今後も処理した竹を

いかに利用するか新しい方法を考えなければなりません。

一年の初めの活動は大成功でした。この調子で一年間楽しく活動していきましょう。最後になりましたが、跡見さん、辻本さんありがとうございました。来年もよろしくお祈りします。



時には野菜でっぼうの標的になりながらも、めげずに頑張りました!

## 森の住人たち ~コゲラ~

コゲラ キツツキ科

棲息地 低山、平地の森(最近では街路樹でも見かける)

体長 15cm

餌 虫、木の実など



コゲラが、今年も森の散策路沿いに巣穴を作った。昨年の巣穴から2メートルも離れていない。その道を通るたびにそっと様子をつかがい、やがて繁殖を確認する。「ヒナの巣立ちが楽しみ」「ちゃんと育つといいね」と知人も、私も興奮。

コゲラはスズメほどのサイズの鳥である。白と黒の縞模様で、留鳥として全国に分布する。「ギョーッ」という独特の声と、木をつつく音にその存在を知ることが多い。

コゲラの巣穴は、傾いた枯れ木の幹にまるで工具でくりぬいたようにあけられる。生木は固いが、枯れ木ならばたやすく穴があけられる。傾いている木

が選択されるのは、雨の侵入を少しでも防止するためである。慎重に選木してコツコツ作業した我が家を、コゲラが利用するのはひとシーズンのみである。翌春の繁殖期には、また新たな巣穴を作る。自然のしくみはよくしたもので、古巣はシジュウカラなど木の穴で繁殖する鳥たちによって再利用される。

ヒナの巣立ちもいよいよかというある日、ヘビが襲った。これも生き物たちのつながり。あらゆる生き物たちが様々な関係を持って生きている。コゲラもヘビも、森の仲間である。

(文責 近藤 記巳)

## 「トヨタの森」第5回森遊び倶楽部 - 森のレストラン -

眞弓 浩二

豊田市にある「トヨタの森」(通称エコのもり)では、開設当初より「エコのもりセミナー」と題して多彩な環境学習・体験プログラムを展開しています。今回の「森遊び倶楽部」もその一環として企画されたもので、これまで「森と親しむ1日プログラム」を毎回多彩なゲスト(案内役)を迎え開催しています。今回そのゲストとして我が「森くらぶ」に白羽の矢が立ったというわけです。

5月19日(日)この日は梅雨の合間の晴れの日といった、良いお天気に恵まれたはずなのですが、お昼前に大粒の雨がスコールのように降り注ぎ、一時はどうなってしまうのか青ざめてしまう場面がありました。でもその雨も1時間くらいで晴れ上がり、森の中に日差しが差し込み、結果的には最高の舞台設定となりました。

そして当初予定していたプログラムもほぼ全部終えることができ、参加された80名ほどの親子連れの皆さんも、思い出に残る森での1日を過ごせたようでした。

プログラムの概略は次の通りです。

- 10:00 オープン...あいさつ  
10:15 アイスブレイクゲーム...  
水野(木文化研究所)さんのエンゲ

ル体操(お炊事体操)

- 10:30 レストラン準備...テーブルコーディネート班(担当:永田さん・近藤(真)さん・太田さん)、食器づくり班(担当:平尾さん・下村さん・眞弓)、調理班(担当:近藤(記)さん・鈴木さん)の3班に分かれて活動開始



- 13:00 森のレストランオープン...(降雨のため場所移動)ヨモギ団子・野花かんてん・竹卵焼き・ヒサカキ茶等を味わいました。

- 13:30 うらやまステージ...雨上がりの明るい森で、水野さん扮するモンちゃん(サル)のユーモアあふれる皿回しと、プロはだし、見事な手さばきの平尾さんのマジックショーに、子どもも大人も目がくぎづけでした。

- 14:00 森のオブジェづくり...参加者全員で森に落ちている枯れ木を使ったオブジェをつくりました。完成したオブジェの中に入った子どもやお母さん達に大好評でした。

- 15:00 閉会式...くす玉ならぬ、くす玉風ザルひっくり返しセレモニー、と記念撮影。実験と改良を重ねたしくみが見事成功、会場は盛り上がりました。

このイベントには、案内役として「森くらぶ」のメンバーのほか、トヨタの森から、そして木文化研究所からと大勢のスタッフが力を合わせました。みんなそれぞれの持ち場での奮闘とともにチームワークの良さが功を奏して、無事成功裏に終えることができました。にわか雨のアクシデントにも見舞われながらも、そんな私たちの懸命な姿が参加者の目についたのか、事後のアンケートでは暖かな感謝の気持ちが数多く寄せられ、スタッフ一同、充実した達成感を共有する事が出来ました。スタッフの皆さん、ご苦労様でした。参加者の皆さん、有り難うございました。

## (財)都市緑化基金より活動助成決定!

小池 敦夫

財団法人都市緑化基金が応募していた第2回「みんなの森づくり活動助成」に当くらぶがエントリーした結果、助成が決定しましたのでお知らせします。助成期間は平成14年4月から平成15年3月までの1年間で、助成金額は534,600円です。

活動名は「市民が主役の伐って育てる雑木林公園づくり」で、助成内容については、森づくり講習会経費や資器材の購入費などです。メンバーのパワーアップに結びつけたいですね。

## 定例活動スケジュール

集いの広場  
10時の集合

- 6月22日(土) 野鳥の水辺づくり  
7月27日(土) インタープリター入門(篠田講師ほか)  
8月24日(土) 森づくりマップを作るまい(林講師)  
9月28日(土) 木の実とキノコ(山田講師)  
10月26日(土) 第4回どんぐり祭り  
11月23日(土) 竹林管理と竹炭焼き(松川講師)

## ● 会員募集中! ●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。

公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。

植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。

柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。

その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。

振り込み先(郵便局)

オアシスの森くらぶ00860-7-33725

連絡は事務局までどうぞ

森くらぶ  
情報センター

参加申込みやお問合せなど

事務局  
伊藤百寿人 052-895-8523  
中島己治男 052-803-9534

ニュースレターをメールで配信

申込先  
e-mail : isoiso@eva.hi-ho.ne.jp  
e-mail : masashi\_k@muf.biglobe.ne.jp

ホームページをご覧ください

e-mail : yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp  
URL address : http://www.amy.hi-ho.ne.jp/yoji-